



病院長あいさつ

鳥取県立中央病院

病院長 廣岡 保明



4月より病院長に就任致しました廣岡保明でございます。

皆様には、日頃より当院の円滑な運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。

現在、世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるっており、ここ鳥取においても感染者が徐々に増加しております。今、私達はこれまで経験したことのない世界を模索している状況です。当院は感染症指定医療機関として、総力をあげてその対応を行うとともに、感染対策チームを中心に、感染患者さんの社会復帰に尽力致しております。

一方で、これまで以上、病でお困りの多くの患者さんへ高度で質の高い医療を提供し、皆様の健康を守るべく、強い決意と誇りをもって毎日の診療を行っております。

この度、病院の改築にあたり、改めて「赤れんがNews」を定期発行させて頂くこととなりました。地域住民の皆様にも、病院の今を知って頂くことで、今後さらにより開かれた病院づくりを目指して参ります。

新型コロナウイルスに備えて

新型コロナウイルス感染症により、患者さん、そのご家族、住民の皆さんの感染防止に向けた取り組みへのご理解とご協力により、診療機能を維持する事ができております。あらためて、感謝申し上げます。

今後の第二波・第三波に備え、感染を疑った場合、どうすればよいのか、また、鳥取県立中央病院における対策とその備えについてお伝え致します。

新型コロナウイルス感染を疑ったら

息苦しさや高熱などの強い症状のある方、軽い風邪症状でも高齢者や妊娠中または基礎疾患を有している方は相談窓口へお電話下さい。また、症状が長引く方も直接医療機関へは受診せずに、まずは電話相談してその指示に従って下さい。

当院での対策

院内に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、国や県、市など関係各所

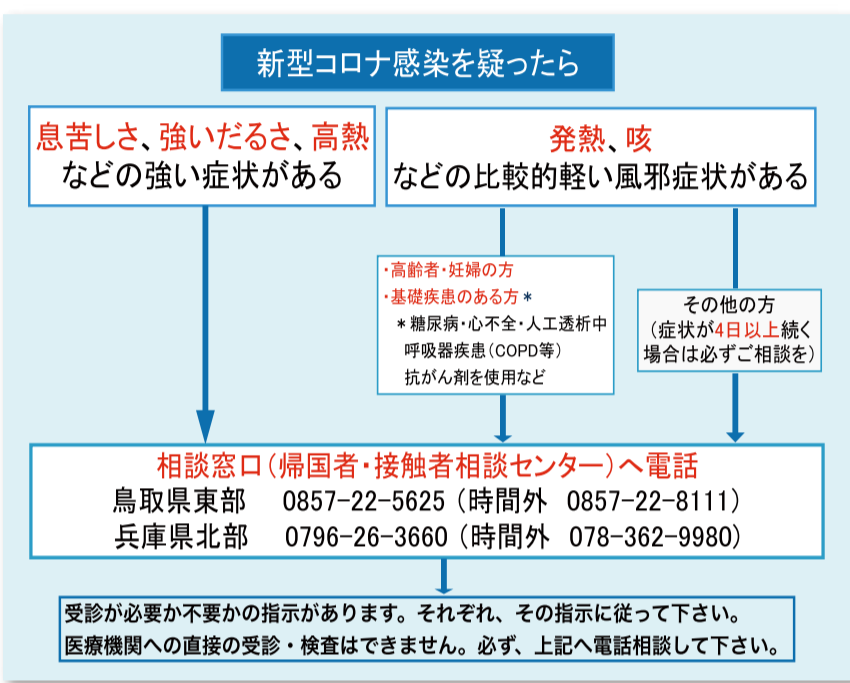
皆様にも、状況に応じ、適宜、面会の制限を行わせて頂いており、ご不便をお掛け致しておりますことをお詫び申し上げます。

皆様へのお願い

院内感染をおこさないために、職員への手指衛生や防護服の着脱の指導と、風邪症状がみられた場合の就業を禁止しています。また、感染の状況に応じ、移動制限など日常生活行動の指導を致しております。外来の患者さんにはサーモカメラや問診による確認を行い、入院される患者さんには、必要に応じてウイルス検査などを行っております。



感染管理認定看護師 板本浩紀



今回、多くの企業、学校、個人様より、マスク、フェイスシールド、飲料水や応援メッセージなど、たくさんのご支援を頂きました。職員一同、心より感謝申し上げます。

新時代の手術

「ロボット手術ははじめました」

いま、巷で噂になっているロボット手術。当院でも2019年9月にロボット(ダビンチX)が導入され、現在、前立腺がん、食道がん、胃がんに対してのロボット手術を行っています。

ロボット手術と聞いて、人型ロボットが手術を行うのではないかと想像された方もいるかもしれませんが、実際のロボット手術とは人間(医師)がロボットを使って行う手術です。医師が遠隔でロボットアーム(ロボットの手)を操作して手術を行います。近年、お腹や胸に数か所の小さな穴をあけて行う鏡視下手術が広く行われるようになってきました。その利点は非常に多いのですが、2次元画像のために奥行きが分かりにくい、鉗子が長くて関節機能がない、手ぶれをおこすなどの欠点がありました。ロボット手術は鮮明な3D画像のため奥行きが分かりやすく、鉗子に多関節機能を有し自由な角度で操作可能であり、また手ぶれ防止機能があることにより、鏡視下手術の欠点を補い、より精緻な手術が可能となります。ロボット手術は難しい手術を簡単にする機械なのです。



外科 建部茂



外科 尾崎知博



泌尿器科 村岡邦康